

新型コロナウイルスの影響を受けた  
ひとり親・生活困窮家庭への食料支援  
実施レポート

2020年10月

---

実施主体  
特定非営利活動法人エティック(ETIC.)

協賛  
J.P.モルガン

協力  
一般社団法人東の食の会

# 内容

食料支援プロジェクトの概要 .....	3
食料支援プロジェクトの実施背景.....	4
食料支援内容 .....	5
実施体制とオペレーション .....	6
配送スケジュール .....	8
成果と今後の課題.....	9
さいごに.....	10

# 食料支援プロジェクトの概要

新型コロナウイルスの感染拡大は前例のない危機を世界中にもたらし、私たちの生活を大きく変えた。長引く自粛生活を経て、人々の健康や雇用、企業経営、経済全体に影響を与えている。

NPO 法人 ETIC.(以下 ETIC.)は、「新型コロナウイルスの影響により、生活が困難な状況に陥っている当事者を短期～中長期的に支えること」を目的として、ひとり親・生活困窮家庭を主な対象としたコミュニティ支援プログラム「インパクト支援 2020」を立ち上げた。

本プログラムは、J.P.モルガンがグローバルで実施している新型コロナウイルスの世界的感染拡大によって影響を受けたコミュニティや企業に対するの支援の中の1つであり、日本での取り組みである。J.P.モルガンより協賛を頂き、ETIC.が運営している。

インパクト支援 2020 の取り組みの一環として、2020年5月～7月にかけて、新型コロナウイルスの感染拡大により経済活動が停滞している東北の生産者<sup>1</sup>から新鮮な米や生鮮食材を買い取り、食材をひとり親・生活困窮家庭全 2060 世帯へ届けた。対象家庭および生産者を支援する以下の団体に協力をいただいて実施した。

## ◆パートナー

- ・NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ(以下、SMF) :ひとり親支援
- ・NPO 法人自立生活サポートセンター・もやい(以下、もやい) :生活困窮者支援

## ◆協力

- ・一般社団法人東の食の会(以下、東の食の会) :東北の一次産業支援

当レポートは、その支援内容や体制、オペレーションそして実施から得たノウハウを記録・公開することを通して、今後食料支援を実施する様々な主体に活用いただくことを目的としている。

---

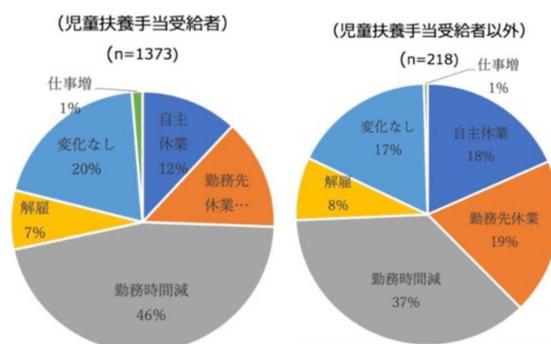
<sup>1</sup> ETIC.と東の食の会、J.P.モルガンの共同プロジェクト「東北グローバルチャレンジ」で支援する農業や漁業などを営む事業者

## 食料支援プロジェクトの実施背景

新型コロナウイルス感染拡大による影響は、もともと生活基盤が脆弱な人々をより苦しい状態に追い込んでいる。就労状況の悪化や大幅な収入減が避けられず、毎日の食事でも十分にとることができない家庭が存在する。

しんぐるまざあず・ふぉーらむの調査によって児童扶養手当受給者・非受給者ともに約8割が勤務時間の減少、休業、解雇などネガティブな影響を受けていることが分かった。

節約のための工夫は「食費を抑える」と回答した方が最も多く、その方法は食事の回数や量を減らしたり、お粥や雑炊など水分を多く含む調理で、空腹を満たす親子もいた。(2020年6月13日 食品支援募集時調査しんぐるまざあず・ふぉーらむ「ひとり親家庭への新型コロナウイルス(COVID-19)の影響に関する調査」<sup>2</sup>より)



しんぐるまざあず・ふぉーらむの赤石千衣子理事長は、「コロナウイルス以前から非正規雇用で収入が少なく、児童扶養手当を受給しながらギリギリの生活をしていたシングルマザー。6月に約1,500人を対象にアンケートをとったところ、仕事の休業や勤務時間の減少により、約8割が収入減、仕事がないと答えた人も1割いた。すでに生活が苦しいなか、さらに出費を減らすには食費を削るしかなく、親子で1日1食、水道代を削るために公園の水道を利用する家庭もある。」と語る。

また自立生活サポートセンター・もやいの大西連代表は、「日雇い労働者はコロナウイルスによる影響で仕事が激減。家賃も払えずネットカフェ生活をしていた人は、カフェの営業停止により締め出しにあってしまった。生活相談を受ける行政の窓口も混雑し、法的な支援が十分に行き届くには時間がかかりそうだ。」と語った。

<sup>2</sup> [https://www.single-mama.com/wp/wp-content/uploads/2020/08/July2020\\_SMF\\_Dpj\\_enq.pdf](https://www.single-mama.com/wp/wp-content/uploads/2020/08/July2020_SMF_Dpj_enq.pdf)

## 食料支援内容

- 実施時期  
2020年5月27日～7月16日(配送前の準備から配送完了まで)
- 配送先と個数  
全2060世帯へ配送。  
・SMF経由でひとり親家庭1591世帯(※うち1060世帯への食料調達はSMFの負担により実施)  
・もやい経由にて生活困窮者469世帯
- 配送食品  
・生活困窮世帯へ米10キロを配送<sup>3</sup>  
・ひとり親世帯へは以下のいずれかを冷凍便にて配送<sup>4</sup>
  - 1) 米5キロ/冷凍ブロッコリー、冷凍小松菜、冷凍イカ
  - 2) 米5キロ/冷凍ブロッコリー、冷凍小松菜、冷凍豚肉
- 各食材の生産者  
・井戸商店/岩手県(イカ)  
・しらかわ五葉倶楽部/福島県(ブロッコリー・小松菜)  
・肉の秋元/福島県(豚肉)  
・カトウファーム/福島県(米)



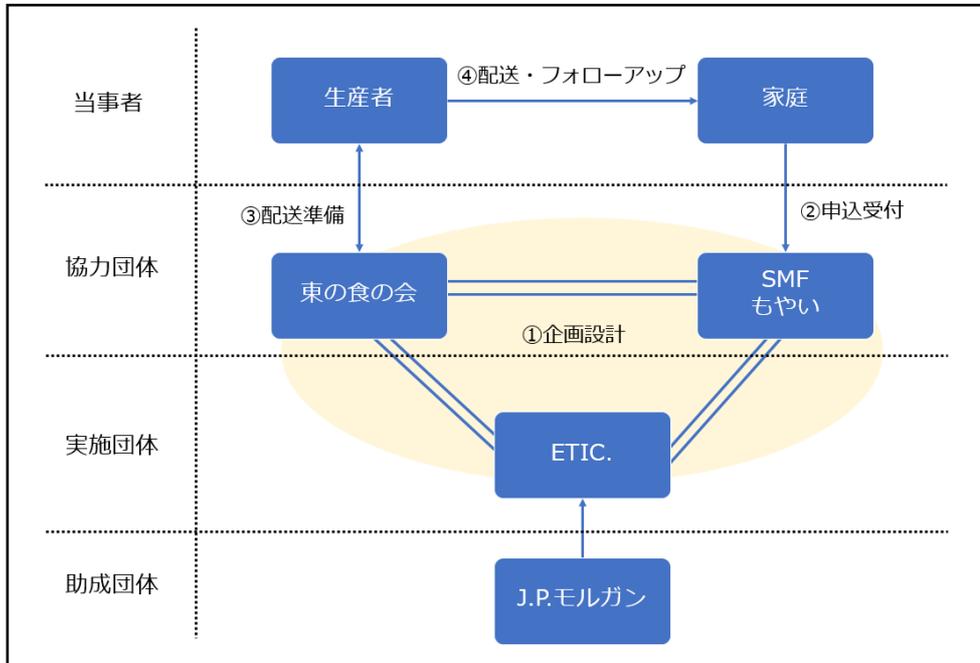
(ひとり親家庭へ配送した食材)

<sup>3</sup> NPO 法人自立生活サポートセンター・もやいへのヒアリングの元、簡単に調理できるお米のみを配送

<sup>4</sup> アレルギーや宗教上の理由がある方のみ食材の選択を可能とした

# 実施体制とオペレーション

## ● 実施体制図



(※以下の数字は実施体制図の数字と関連している)

### ① 企画設計

・ETIC.、東の食の会、SMF・もやいで連携し、食料支援プロジェクト全体を企画。食料配送フローを構築した。

### ② (各家庭からの) 申込受付

・SMF は自団体のメルマガに登録するひとり親家庭から食料支援の申し込みを受け付けした。

・もやいは自団体で所有している生活困窮家庭のリストを活用した。

### ③ 配送準備

・食材の選定や配送スケジュールの調整、配送の際の配慮すべき点などを生産者に伝えた。

### ④ 配送・フォローアップ

・生産者から直接各家庭へ配送。

・東の食の会と SMF・もやいが食料の配送状況について適宜進捗を共有。

SMF・もやいから受け取り家庭に向けて、配送前後の連絡や問合せに対応した。

● 工夫事項

1. 受け取り家庭への配慮

・受け取り家庭に安心して受け取ってもらうために、SMF・もやいからのお便りを一緒に食材と梱包した。また伝票に記載する食材配送元は生産者ではなく、各団体または団体代表者の名前へ変更。

・不在配達を防ぐために、配送時間を固定する等、生産者と各団体で調整。

・生活困窮世帯への食材は簡単に調理できるお米のみを配送。

2. 食材のパッキング

・しらかわ五葉倶楽部は配送がスムーズに進むように食材がちょうど入るオリジナルの段ボールを制作。

・冷凍便でお便りを食材と一緒に梱包する場合は、お便りが濡れないようにビニールに封入。

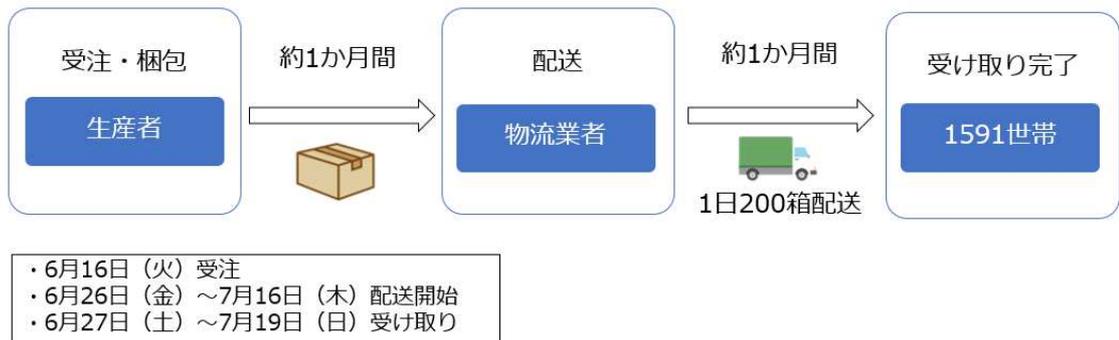
3. 配送

・離島の配送先がある場合は、物流会社によって配送金額や配送可能地域が異なるため、事前に確認。

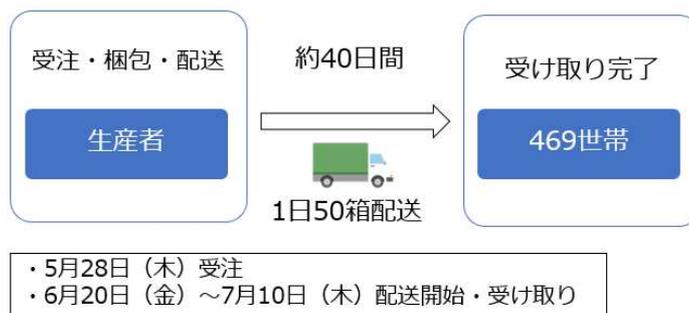
・受け取りが困難だった家庭への食材は、物流会社から各団体(SMF・もやい)へ連絡し、それぞれの事務所へ転送。各団体が家庭へ直接問い合わせ、状況を確認し対応。

## 配送スケジュール

- SMF が支援しているひとり親家庭への配送(全 1591 世帯)
  - ・受注から配送までに約 30 日、そこから全世帯受け取り完了確認までに 30 日と、合計約 60 日を必要とした。
  - ・また冷凍便のため、食材と梱包するお便りはビニールに入れ、濡れないようにする必要があった。ビニールに入れるのに、約 5 時間必要とした。



- もやいが支援している生活困窮家庭への配送(全 469 世帯)
  - ・受注から配送までに約 20 日、全世帯受け取り完了確認までに約 20 日と、合計約 40 日を必要とした。



## 成果と今後の課題

本食料支援を通して生み出した成果と明らかになった課題を以下にまとめた。

### 【成果】

・新型コロナウイルスにより生活に大きな影響を受けたひとり親家庭・生活困窮者の合計 2060 世帯に米や生鮮食品等の新鮮な食材を届けた。同じく新型コロナウイルスの影響で在庫の滞留に悩まされていた生産者から食材を購入することで、生産者の売上の回復に貢献した。

・当事者支援団体である SMF やもやいと連携することで、当事者の状況・状態に寄り添った食材の選定や、配送の準備を行った。

・社会的に困難な状況にある家庭への食料支援を行う際の、新しいネットワーク／当事者に寄り添った配送のオペレーションが、SMF・もやいと東の食の会・生産者の間で構築された。

※9月と10月に実施した SMF による食料支援では、今回構築されたネットワークを活かし、東の食の会と連携して、各月それぞれ 2000 世帯以上に食材を配送することができた。

### 【今後の課題】

・緊急ニーズとしての食料支援の実施だったが、経済活動が戻った今もなお、ひとり親家庭や生活困窮者の方からの食料ニーズは高い。食料支援に加え、中長期的に困難な状況下に置かれている方の生活基盤を強化する社会的な支援が必要とされている。

## さいごに

当事者の状況・状態を熟知しているしんぐるまざあず・ふぉーらむと自立生活サポートセンター・もやいと連携、また新型コロナウイルスの影響を受けている方の支えになりたい、という思いから本プロジェクトに協力いただいた東の食の会・生産者の思いがあつてこそ、本食料支援を実施することができた。

食材を受け取った家庭からは、たくさんのお礼の電話やお返事、また届いた食材を調理した写真が届き生活の助けとして活用していただけた。

一方、SMFによると、10月の食料支援の申し込み時には、親は1日1食で生活をやりくりしているなど、6月にSMFが実施したアンケートの回答から状態が変わっていない家庭が見受けられ、食料支援は引き続き必要とされている。

本レポートがひとり親家庭や生活困窮家庭などを支える様々な組織や、食料支援を希望する企業・生産者の方々にガイドラインとして活用いただければ幸いである。

以上

## 実施主体

### ●NPO 法人 ETIC.(エティック)

1993年設立、2000年にNPO法人化し、人口減少、経済縮小、超高齢化社会における都市と地方の関係や、日本や世界の未来を考え、実践し、支え合い、学びを共有し、また次の未来を描く、未来をつくる人たちのコミュニティづくりの活動を推進しています。日本初の長期実践型インターンシップの事業化や若手社会起業家への創業支援を通じこれまで約8,800名の若者たちが変革・創造の現場に実践者として参加、1521名を超える起業家を輩出。またその仕組みを全国70地域の連携組織へ広げています。東日本大震災を受け、「震災復興リーダー支援プロジェクト」を開始(11年～)するとともに、東北のリーダーを支えるための「右腕プログラム」を立ち上げ、これまでに154のプロジェクトに対して、262名の右腕人材を派遣しています。また、長期的な復興の担い手となる地域のハブ組織の強化にも力を入れ、2013年度からはハブ機能強化のための日米交流プログラムや、モデルとなりうるハブ組織への助成プログラムも実施しています。詳細はウェブサイト [www.etic.or.jp](http://www.etic.or.jp) をご覧下さい。

## 協賛

### ●JP モルガン・チェース

JP モルガン・チェース・アンド・カンパニー (NY 証取: JPM) は総資産 3.2 兆ドルを有する世界有数のグローバル総合金融サービス会社です。投資銀行業務、個人・中小企業向け金融サービス業務、コマーシャル・バンキング業務、金融取引資金管理業務、資産運用業務において業界をリードしています。世界で展開する法人向け事業は「J.P.モルガン」、米国における個人向け事業は「チェース」ブランドを用いて、世界有数の事業法人、機関投資家、政府系機関および米国の個人のお客様に金融サービスを提供しています。詳細はウェブサイト <https://www.jpmorganchase.com/> をご覧下さい。

### ●日本における J.P.モルガンについて

日本における J.P.モルガンの歴史は、関東大震災の翌年に日本政府が初めて発行した震災復興公債を引き受けた 1924 年に遡ります。日本においては、JP モルガン証券株式会社、JP モルガン・チェース銀行東京支店、JP モルガン・アセット・マネジメント株式会社が事業を展開しています。投資銀行、債券・株式・為替取引、資金決済・貿易金融、資産管理の媒介、資産運用など幅広いサービスを法人のお客様に提供しています。詳細はウェブサイト [www.jpmorgan.co.jp](http://www.jpmorgan.co.jp) をご覧下さい。

## 協力

### ●一般社団法人東の食の会

東北の食産業の復興と創造を長期的に支援するとともに、日本の食の安全・安心を世界に伝え、日本の食文化を世界と繋ぐため、2011年6月に設立。東北の農業者・漁業者・食品加工業者のスキル・ビルディングとプロデュース、東北の食品の開発・プロデュース、国内および海外における販路開拓・プロモーションに取り組んできました。これまでに、三陸水産業、福島農業を中心に、多くのヒーロー漁師、ヒーロー農家を生み出し、商品企画・プロデュースをした岩手県産のサバの缶詰「サヴァ缶」は、2013年の発売以来、600万缶・20億円以上を売上、また、ブランディングを行った海藻「アカモク」は市場が飛躍的に拡大し生産が追い付かず輸入が始まるなど、東北の食の産業復興に具体的なインパクトを創出しています。

## パートナー団体

### ●NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ

シングルマザー経験者が中心で活動する、シングルマザー親子のサポート団体。1980年に発足、2002年よりNPO法人。シングルマザーと子どもたちが生き生き暮らせる社会をつくるため、就労支援、相談事業、セミナーと人材育成、情報提供、新入学お祝い金事業、親子イベントなど、パワフルに活動しています。また、ひとり親に関わる制度の改善のため、シングルマザーサポート全国協議会において全国の支援団体と連携、政策提言活動を行っています。コロナ感染拡大においては、3月の一斉休校と同時に調査と食料支援を併行して行い、ひとり親の厳しい生活状況をメディアを通じて広く訴え、政策提言を行いました。6月には「だいじょうぶだよ！基金」を設立、全国のひとり親支援団体への助成も開始しました。7月現在、メールマガジン登録会員5,700人。

### ●NPO 法人自立生活サポートセンター・もやい

もやいは生活困窮者の支援をおこなう認定NPO法人。2001年の設立以来、住まいのない方がアパートに入居する際の連帯保証人をのべ約2,400世帯、緊急連絡先を約600世帯引き受けてきました。また、全国からよせられる生活に困窮した人からのSOSは年間で約4,000件にのぼります。そして、居場所作りの活動として毎週土曜日にカフェを営業（現在は新型コロナの影響でお休み中）したりと、経済的な貧困と、つながりの貧困（関係性の貧困）との両輪で貧困問題をとらえ、困っている方への支援をパッケージでおこなっています。さらに、政府や自治体に対して、社会保障制度の改善をうながすための提言活動をおこなったり、メディア等を通じて貧困問題について発信することにより、貧困問題の社会的な解決を目指しています。